

SOLOMON ISLANDS

ソロモン諸島

古の時代から続く自然
あなただけの宝物を探しに行こう

約1000の島々から成り立つソロモン諸島は、太平洋の島々の中でパプアニューギニアに次ぐ面積を有しています。公用語であるビジン語や英語以外に80以上の独自言語があり、アイランドホッピングをすれば新しい魅力的な文化にすぐに出会うことができます。ソロモン諸島の一番の魅力は、豊かな文化と生物多様性です。言語が異なる島々では伝統的な文化を体験し、小鳥のさえずりを聞きながら山を登り、イルカやウミガメと海で触れ合い、そして、ランをはじめとした花々の甘い香りに心が奪われる一五感をフルに使って文化と自然を楽しむことができます。

ソロモン諸島の「ソロモン」という名前は、ガダルカナルで砂金を見つけた当時の探検家が、古の時代に栄華を極めたソロモン王の島を見つけた、と伝えたことに由来します。一時代を築いたソロモン王が持っていた豪華絢爛な宝物は、今のソロモン諸島にないかもしれません。ただ、悠久の時を経て築き上げてきたソロモン諸島の文化と自然の豊かさは、それ以上の宝物です。



渡航経路例
成田⇒プリズベン(オーストラリア)⇒ホニアラ(ソロモン諸島)

満喫プラン

初級モデルコース ホニアラで身近な財宝を探すツアー

- 1日目**
- PM ● オーストラリアのプリズベンで前日に楽しんだ後、翌日の午後にホニアラに到着。ホニアラの中心部には日本人が経営するホテルがあり、初めてのソロモン諸島でも安心安全。荷物を置いたらホニアラで宝物探しの下準備。メインストリートであるメンダナ・アベニューを歩いて、ソロモン諸島の雰囲気を感じ、夕飯は海鮮料理を満喫。豊富な海産物は宝物の一つ。ルビーのような魅惑的な赤色を醸し出すロブスターを堪能。
- 2日目**
- AM ● 国立博物館とアートギャラリーでソロモン諸島の伝統文化に触れる。現地の女性たちが販売するハンディクラフトは、一つとして同じものはない。ホニアラ中央市場でショッピング。南の島特有の彩り豊かな野菜や果物、そして南の島の魚たちが集まる市場はまるで宝石箱。ソロモン諸島のユニークな伝統工芸品である「ヌズヌズ」はアートギャラリーや中央市場で販売中。あなただけのヌズヌズは、忘れられない宝物。
- PM ● メンダナ・アベニュー沿いの地元のレストランでランチ。たくさんの種類があるので、最初に気になったものを食べよう。ビル戦争博物館を訪問。ジャングルの中に放置された銃砲や戦闘機の残骸を見学。海を眺められるレストランで、沈む夕日を眺めながら食事を楽しもう。食事のお供に琥珀色の地ビールはいかが？
- 3日目**
- AM ● スーツケースはホテルに預けて、メンダナ・アベニューをもう一度歩こう。初日はまた違った表いに見えるその景色は、心に残るひとつの宝物に。空港に行く前に早めの昼食。前日に選ばなかったけど気になったものはいかが？
- PM ● 空港に移動し、ソロモン諸島で見つけたあなただけの宝物を思い返そう。プリズベンへ向けて出発。



Flower
200種以上の「花」
ソロモン諸島の花といえば、花の女王「ラン」。確認されているだけでも、200を超えるランの固有種が存在しています。ランの花言葉は花弁の色によってさまざまです。自分の好きな花言葉を持つランの写真を宝物の一つとして持ち帰ませんか。



Bird
170種以上の「鳥」
極彩色のインコやオウム、さらには日本でもなじみ深いウグイスやフクロウ、ソロモン諸島には170種類を超える鳥類が生息しています。火山の地熱を利用して巣作りをするツツクリ、さらに固有種ソロモンミワシは必見。貴重な鳥たちとの一期一会、その瞬間はそれだけで宝物になります。



Butterfly
130種以上の「蝶」
ソロモン諸島には世界最大のトリバネアゲハを始めとした珍しい蝶が多く生息しています。その数は、130種以上にも及ぶと言われています。海の青、雲の白、木々の緑で色づいた南の島に、色鮮やかな蝶はさらなる彩りを与えてくれます。蝶に出会った記憶は、あなたのソロモン諸島の滞在をより鮮明にしてくれることでしょう。

堪能プラン

中級モデルコース 地方部を回ってソロモン諸島の宝物を探すツアー

- 1日目**
- PM ● プリズベン経由でホテルに到着。次の日から始まる地方部での宝物探しのために、スーパーマーケットなどで水や食事などを準備。地方部に行くために必要なものを揃えるだけでも、心が躍る。明日から始まる地方めぐりに思いを馳せながら、早めに就寝して体力回復。
- 2日目**
- AM ● ガダルカナル島に残る戦跡巡り。「歴史」という時の遺産に思いを馳せよう。
- PM ● レッドビーチ、アリゲーター・クリーク、ボネギ海岸などの戦跡も見学。そこで何が起きていたのかを感じ、ソロモン諸島に於ける今という平和が宝物。
- 3日目**
- AM/PM ● ニュージョージア島(ムンダ)へ向かう。まずはムンダの町を探索し、リゾートホテルにチェックイン。その後、ムンダの有名スポットである「骸骨島」へ。骸骨島ではさまざまな骸骨を見ることができ、そこに独特の風俗・文化を感じられる。そこに住む人々にとって骸骨を守る風習こそが宝物。
- 4日目**
- Noon ● ニュージョージア島からホニアラへ戻り、そのままポートでツラギへ。
- PM ● 日本の「菊月」の残骸が見られる「トウキョウ・ベイ」などを訪問。その後は、時間がゆっくり流れるツラギで、その心地よい時間の流れに身を任せよう。道端に咲くランの花など、ふと目に留まる身近な宝物を集めよう。当日中にホニアラへ戻り、今回の旅で集めた宝物を振り返ろう。
- 5日目**
- AM ● お土産にヌズヌズと共にソロモン諸島で使われている「シェルマネー」はいかが？ 工芸品として購入可能。
- PM ● 空港へ行きソロモン諸島で見つけたあなただけの宝物を地図にマッピング。そんな地図も宝物の一つ。たくさんの宝物をお土産にプリズベンへ向けて出発。

Q ソロモン諸島には12月に来てくれそうな「サンタクルーズ諸島」があります。では、クリスマス島がある国はどこでしょうか？

A 答えは p.20 に！

コラム 1 ストーリー豊かな島々

約1000の島々があるソロモン諸島、その島々には、ユニークなストーリーを持つ島々があります。たとえば、ケネディ島は、故ケネディ元アメリカ大統領が戦争中に泳いでたどり着いた場所です。ガダルカナル島東端マラウにある離島は、2012年にイギリスのウィリアム王子夫妻が訪れました。ひとつひとつの島にストーリーがあります。あなたの滞在がその島のストーリーになるかもしれません。

コラム 2 伝統的水上コテージ!?

マライタ島北部ラウでは、手作業でラグーンに石を積んで島を作り、そこに住んでいます。これらの島々は、世代から世代へと受け継がれてきた伝統技術により、今も人の手によって造られています。ランガンガ・ラグーンには宿泊施設があり、島作りの実演を見ることができます。「石造りの島」での水上生活は、一般的な水上コテージでの宿泊では得られない貴重な体験になるのは間違いありません。

オンラインコンテンツを楽しもう

ソロモン諸島の情報をさらに知りたい方はソロモン諸島観光局のウェブサイト(英語)にアクセス!